

同窓会だより

実業会（経済界）で活躍する真和OB

株式会社肥後銀行 取締役副頭取

永田 浩夫（1期生）



「さぎさまのこと思い出す校かなー芭蕉」

校は私たちに、その美しい姿とともに思い出を運んでくれます。奇しくも、いま

こうして文章を綴っているのは桜の季節。舞い散る桜に身をゆだねながら、芭蕉に倣い、我が半生を振り返ってみようと思います。

昭和35年4月8日、満開の桜が咲き誇る中、真和中学校第一期生80名の入学式が行われ、私もその一員として、期

同級生の金森義行君と共に6年間、雨の日も風の日も、野口町から学校までの10キロを自転車通勤しました。私がこれまで大きな病気もせず健康に過ごせたのは、この経験があったからかもしれません。

学校行事も充実しており、夏休みの久木野林間学校、大矢野林間学校、「寅さん」の舞台になった阿蘇田の原での合宿も良い思い出です。関西への修学旅行では、同じく中高一貫教育で日本有数の進学校として有名な灘中学・高校へ訪問し、授業参観させてもらったのですが、そのレベルの高さに感動し、負けてはいられないと、奮起したことを覚えてます。

昭和37年1月、古い木造校舎から、4階建の現在の新校舎に移転。当時私は1組に在籍していたのですが、放課後になると、2組、3組に出かけていき相撲をとったり、ソフボールをしたりと、広くなった新校舎で、学友たちとともに、のびのびと勉学に遊びに励みました。

こうして、良き師、良き友に恵まれ過ごした真和での6年間は、私の後の生き方の礎となりました。

の礎となりました。

昭和41年4月、北九州大学商学部に入學。東京オリンピック重量挙げ金メダリストの三宅義行選手に憧れ、重量挙げ部に入部しました。以降4年間、重量挙げに熱中し、部活動中心の生活を送ることになりましたが、全九州大会では団体・個人とも優勝でき、学生生活を大いに満喫しました。昭和43年から44年にかけて全国に広がった学生運動は、4年生のとき北九州大学でも勃発し、私は体育会として学校側と紛争を治める立場に置かれました。少し前まで共に酒を飲みかわし、楽しく語らった朋友と対立しなければならなかったのは、なんともやりきれないことでした。

こうして色々と経験した鳥兎匆匆の4年間でしたが、部活動などを通じて多くの心腹の友を得たことは、生涯の宝となりました。

昭和45年4月に、肥後銀行に入行、子飼橋支店に配属になりました。入行後一番苦労したのは、「出身高校は？」と聞かれたときの対応でした。

皆さんもご存じのとおり、熊本は、出身高校に対する思い入れが大変強く、初対面で必ずと言っていいほど出身高校を聞く習慣があります。「真和高校」は、私が1期生です。当然ながら、お客様も上司も先輩もよくご存じでなく、説明するのに一苦労で、先輩の辛い痛みを感ぜられました。しかし、逆に、1期生として自分たちが頑張ったという使命感を上げなければという使命感に駆られ、これをきっかけに、何事にも人一倍努力をするようになりました。その甲斐あってか、今では、肥後銀行の真和高校出身者は50人在籍しており、支店長や本部の要職で活躍しています。

その後、多くの営業店経験を経て、平成10年に取締役を経て、平成22年に副頭取に就任し現在に至るわけですが、四十余年の銀行員生活でもまた、多くのお客様や先輩、同僚との出会いがあり、多くを学ばせていただきました。私は、ありがたいことに、こうした人間関係に大変恵まれ、その付き合いを今でもとても大事にしています。

「誠実をもって一貫すること、信念を養い明朗なこ

と、希望を持ち努力すること。今振り返ってみると、この真和の「誠信望」の精神こそが、そのまま私の行動指針となり、人脈形成、要所・難所での対処に役立ったのだと思います。そういう意味でも、真和中学・高校の1期生であったことに感謝しています。

真和中学・高校は、創立53年を迎え、先生方のご努力により、誰もが知る進学校へと成長しました。私も、真和の学窓を巣立つて47年、仕事柄様々な会合、懇親会で真和高校の卒業生と会う機会があります。皆さん、行政、医療界、経済界等で活躍で、実に頼もしく、嬉しいと同時に、同じ真和高校卒業生として大変誇りに思います。

平成23年の九州新幹線全線開業、平成24年の熊本市政令指定都市への移行などを背景

に、いま、熊本は大きく動きつつあります。交流人口の増加に伴うビジネスチャンスの拡大等々、この一〇〇年に一度のチャンスを如何に生かしていくか、産・学・官連携して何ができるのか。熊本の発展のために、熊本の経済人として、自分がすべきことを為すべく、一意専心努めているところです。

私は常に「誠・信・望」の

履 歴

永田 浩夫(ながたひろお)

昭和22年6月15日生

学 歴

昭和22年6月 熊本市野口町生まれ

昭和35年4月 真和中学入学

昭和38年4月 真和高校入学

昭和41年4月 北九州大学商学部入学

職 歴

昭和45年4月 肥後銀行 入行

平成10年6月 取締役 人事部 長 兼 秘書 室 長

15年6月 常務取締役 営業 統 括 部 長

18年6月 専務取締役

21年6月 専務取締役 (代表取締役)

22年6月 取締役副頭取 (代表取締役)

現在に至る

公 歴

熊本商工会議所 副会頭

熊本県公安委員会委員

公益財団法人熊本県体育協会 理事

最後に、我が母校、真和中学・高校が、在校生のみならずの成長と共に大きく飛躍されることを期待しています。

一途に今

真和中学・高等学校教育友会会長

馬場 成志



ご入学、ご進級おめでとうございます。

新学期が始まって一ヶ月余経ちました。生命力みなぎる木々の若芽のように未来に夢を持って学校生活を

始めていることと存じます。

現在の日本は、経済危機や震災から徐々に回復しつつあります。この時期にあつて、若い皆さんの「力」は必須のエネルギー源であり、大きな期待があります。

「力」それは「学力」や「体力」に加えて、忍耐強く事を成し遂げる強い心や郷土を愛する気持ちが必要であります。この「力」は、学校生活や家庭

で育まれるものです。心が強くなければ力を存分に発揮することはできません。ましてや開き直って正面からぶつか

ることもできません。性格は人それぞれですから、心の強い人も弱い人もいます。しかし、強い忍耐力を維持し、一途に世のために行動するといふ強さは、自分の心の持ち方

で出来ることです。近年の社会や自分を取り巻

く環境の変化にあつて、あらためて一人間万事塞翁が馬」という故事に思い至ります。

皆さんも一度辞書を引いてみてください。何が幸いで何が災いかは、後になってみなければ分からないということ

です。将来のことは分からないから、今努力しなくてはならないじゃないかと思う人もいます。しかし、今の幸福に浸って努力しないということ、不幸に嘆いてばかりで何にも

で闘っている心を培ってください。また、自分が生まれ育った郷土を愛し、自信と誇りを持つことで、その心はもつと強くなつて行くでしょう。郷土の歴史や偉人について学んで、その心を育んでください。この

ような生きる力の基礎を育むのは青年期の「今」です。いつか生徒のみなさんが世界に羽ばたく時が来たとき、揺るがぬ強い心を持つて活躍出来るように、家庭・学校・郷土は支えてくれるでしょう。

これからの一日一日、生徒の皆さんの成長を楽しみにしています。

関東大学ラグビー対抗戦優勝!! 第49回全国大学ラグビー選手権大会準優勝!! 筑波大学ラグビー部

大川創太郎 (45期生)



181cm 105kg びたむきなプレーが信条

国立競技場のピッチに立つまで

在校生のみなさん、こんにちは。私は2010年に真和高校を卒業し、現在は筑波大学体育専門学群、そして体育会ラグビー部に所属している大川と申します。

私は某K高校に入ることを見送りましたが受験に失敗し、高校から真和でお世話になりました。入学した当初はラグビー部がないという環境

ということから、ただ漠然と毎日を送っていました。しかし1年生の終わりが、進学校を卒業しラグビー部でレギュラーになっている選手がいたことや国立大学ということに魅力を感じ、筑波大学に進学したいと考えようになりました。それから自分自身の目標が明確にできたことで、勉強・トレーニングに対し真摯に取り組むことが出来ました。その結果無事に筑波大学に進学することができました。

大学に入学して1年目は一番下のチームからのスタートで、推薦入試で入った同期や先輩方の実力に圧倒され練習についていくのが精一杯でした。このままでは4年間レギュ

成できませんでしたが、私にとっては非常に大きな経験となりました。

最後になりましたが、準決勝・決勝とテレビの前で応援して下さった真和中学・高校の後輩の皆様ありがとうございました。今シーズンこそは「大学日本一」になれるよう日々精進していきたいと思

第49回全国大学選手権大会 対慶応大学戦(秩父宮ラグビー場)



慶応ティフエンス陣を引き裂いて突進する大川創太郎君

ホームページ

真和中学・高等学校
<http://www.shinwa.ed.jp>

真和同窓会(杏葉会)
<http://www.shinwa-dosokai.com>

同窓会お知らせ

平成25年度真和中学・高等学校
大同窓会(杏葉会)
総会・懇親会開催。

日時:平成25年6月8日(土)6時
場所:熊本ホテルキャッスルにて